

【資料 1】 都道府県第 11 次へき地保健医療計画の進捗状況調査に関する資料

- (1-1) 都道府県第 11 次へき地保健医療計画の進捗状況調査 調査用紙
- (1-2) 都道府県第 11 次へき地保健医療計画の進捗状況調査 集計結果 (主要な項目のみ)

平成 24 年度 都道府県第 11 次へき地保健医療計画の実態・進捗状況調査

回答は添付の Excel ファイルに入力してください。はじめに都道府県名を記載してください。特に断りのない限り平成 24 年 4 月 1 日現在の状況を入力してください。文末に【PD】とある設問は、プルダウン（表示される選択肢から回答を選ぶ方式）で入力し、それ以外の設問は、文、数値等を欄内に自由に入力してください。なお、設問中のへき地診療所とは、へき地保健医療対策等実施要綱にあるへき地診療所を指し、国民健康保険直営診療所を含みます。

なお、本調査内容は厚生労働省が行った平成 23 年度のへき地医療現況調査と調査内容が重複している部分もあります。本調査は平成 24 年 4 月 1 日時点の状況を把握することを目的としていますが、回答内容に変わりがないようでしたら、各都道府県の判断でへき地医療現況調査と同様の回答をしていただいても構いません。

1. へき地医療支援機構・へき地医療拠点病院・へき地診療所の実態

■へき地医療支援機構について

「へき地医療支援機構の設置状況」

(1) へき地医療支援機構が設置されている都道府県は○を、設置されていない都道府県は×を選択してください。【PD】

「へき地医療支援機構の設置機関」

(2) へき地医療支援機構が置かれている機関を選択してください。【PD】

①都道府県 ②へき地医療拠点病院 ③へき地医療拠点病院以外の病院 ④外部委託

「専任担当官のへき地での診療経験の有無」

(3) へき地医療支援機構の専任担当官にへき地での診療経験がある場合は○を、ない場合は×を選択してください。【PD】

「専任担当官の勤続年数」

(4) へき地医療支援機構の専任担当官としての勤続年数を記載してください。

「専任担当官のへき地関連業務従事日数」

(5) 平成 23 年度の実績において、へき地医療支援機構の専任担当官が一週間の中でへき地医療を支援する業務（(6) のア、イの業務）に従事している日数について、以下の選択肢（①～⑤）から選択してください。【PD】

①0～1日 ②1～2日 ③2～3日 ④3～4日 ⑤4～5日

「専任担当官の業務別専従時間」

(6) 平成 23 年度の実績において、へき地医療支援機構の専任担当官が下記の業務（ア～エ）それぞれについて、一週間の中で専従している日数を以下の選択肢（①～④）から選択してください。【PD】

＜選択肢＞ ① 0～1日 ② 1～2日 ③ 2～3日 ④ 3～4日

ア へき地診療所への代診

イ アの業務以外のへき地医療支援機構としての本来業務（代診医派遣調整、医療計画策定への関与、へき地医療従事者への研修計画立案、へき地医療現場の意見の調整・集約等）

ウ へき地医療拠点病院の業務（へき地医療拠点病院での診療等）

エ その他（ア～ウの業務以外の業務）

「専任担当官の現地視察回数」

(7) 平成 23 年度に、へき地医療支援機構の専任担当官が、へき地医療現場の現状把握等を目的として、へき地医療現場を訪問、視察した延べ回数を記載してください。

「専任担当官の首長等との意見交換回数」

(8) 平成 23 年度に、へき地医療支援機構の専任担当官が、へき地医療現場の市町村長等の首長等と意見交換を行った延べ回数を記載してください。

「専任担当官がへき地医療関連業務に専念するための工夫の有無」

(9) へき地医療支援機構の専任担当官がへき地医療に関する業務に専念できるような工夫をしている場合は○を、していない場合は×を選択してください。【PD】

「専任担当官がへき地医療関連業務に専念するための工夫の内容」

(10) (9) で○を選択した都道府県はその内容を記載してください。

■へき地医療拠点病院について

「へき地医療拠点病院の実績」

都道府県のすべてのへき地医療拠点病院について下記の項目に関して平成 23 年度の実績を記載してください。

(11) 巡回診療の実施回数と延べ日数及び延べ受診患者数

(12) 医師派遣実施回数と延べ派遣日数

(13) 代診医派遣実施回数と延べ派遣日数

「へき地医療拠点病院の看護師数」

都道府県のすべてのへき地医療拠点病院について下記の項目に関して記載してください。なお、看護師は准看護師を含みます。

(14) 常勤の看護師の定数

(15) 常勤として勤務している看護師数

■へき地診療所について

「へき地診療所の現状」

都道府県のすべてのへき地診療所について下記の項目に関して記載、選択してください。なお、看護師は准看護師を含みます。

- (16) 正式な施設名称
- (17) 所在地（〇〇県〇〇市〇〇番地のように最後まで記載してください。）
- (18) 全病床数（有床診療所のみ）
- (19) 全医師数（非常勤医師は除いてください。）
- (20) 常勤の看護師の定数
- (21) 常勤として勤務している看護師数
- (22) 非常勤として勤務している看護師数

2. 第11次へき地保健医療計画の進捗状況

■ドクタープール

ここで述べるドクタープールとは、都道府県が主体となって、へき地医療や地域医療に関心がある医師を都道府県内外から募集・採用を行い、へき地や地域からの要請に対応して常勤医としての医師を派遣するシステムのことです。へき地医療支援機構が行っている代診医の派遣などのシステムとは異なります。

「ドクタープールのシステム作り」

(23) 都道府県が主体となって（委託を含む）ドクタープールのシステムをつくっている場合は○を、作っていない場合は×を選択してください。【PD】

「ドクタープールの新規登録者」

(24) (23) で○を選択した場合は、平成23年度中、新規に登録した医師数を記載してください。

「ドクタープールの登録者」

(25) (23) で○を選択した場合は、平成24年4月1日時点で登録している医師数を記載してください。

「へき地医療に関わっている医師」

(26) (23) で○を選択した場合は、平成23年度中に登録していた医師の中で、へき地医療拠点病院もしくはへき地診療所に常勤医として派遣された人数を記載してください。

■へき地医療への動機づけ

「へき地医療に関連した寄附講座」

(27) 都道府県が、へき地医療に関連した寄附講座を大学医学部に設置している場合は○を、していない場合は×を選択してください。【PD】

「中学生・高校生を対象とした啓発活動」

(28) 中学生・高校生を対象に、へき地医療の魅力を伝える啓発活動等を行っている場合は、平成 23 年度に行った回数を記載してください。行っていなければ 0 回と記載してください。

「中学生・高校生を対象とした啓発活動の具体的内容」

(29) (28) で中学生・高校生を対象に、へき地医療の魅力を伝える啓発活動等を行っているとは回答した場合は、具体的な内容を記載してください。

「大学におけるへき地保健医療に関する医学教育」

(30) 都道府県内の大学等、関連した大学で、全医学生に対してへき地保健医療に関する教育が行われている都道府県は○を、行われていない都道府県は×を選択してください。【PD】

「大学においてへき地保健医療に関する教育が行われている学年」

(31) (30) で○を選択した場合は、へき地保健医療に関する教育が行われている学年には○を、行われていない学年には×を、それぞれ選択してください。【PD】

①第 1 学年 ②第 2 学年 ③第 3 学年 ④第 4 学年 ⑤第 5 学年 ⑥第 6 学年

「へき地医療の現場を経験できるカリキュラム」

(32) 都道府県内の大学等、関連した大学で、全医学生がへき地医療の現場を経験できるカリキュラムがある都道府県は○を、ない都道府県は×を選択してください。【PD】

「へき地医療の現場を経験できるカリキュラムのある学年」

(33) (32) で○を選択した場合は、へき地医療の現場を経験できるカリキュラムのある学年には○を、ない学年には×を、それぞれ選択してください。【PD】

①第 1 学年 ②第 2 学年 ③第 3 学年 ④第 4 学年 ⑤第 5 学年 ⑥第 6 学年

「自治医科大学学生とのコミュニケーション」

(34) 自治医科大学学生に対し、都道府県が定期的（年 1 回以上）に直接接触し、コミュニケーションをとる機会を設けている場合は○を、設けていない場合は×を選択してください。【PD】

「地域枠学生・奨学生とのコミュニケーション」

(35) へき地医療に従事することを条件とした地域枠学生・奨学生に対し、都道府県が定期的（年 1 回以上）に直接接触し、コミュニケーションをとる機会を設けている場合は○を、設けていない場合は×を選択してください。【PD】

「自治医科大学学生と地域枠学生・奨学生とのコミュニケーション」

(36) 自治医科大学学生と、へき地医療に従事することを条件とした地域枠学生・奨学生が一同に会してコミュニケーションをとる機会を設けている場合は○を、設けていない場合は×を選択してください。

【PD】

■へき地医療従事者に対する研修計画・プログラムの作成

「へき地医療を担う総合医の育成を目的とした後期臨床研修プログラム」

(37) 都道府県内の基幹型臨床研修病院・大学病院等の研修指定病院で、へき地医療を担う総合医の育成を目的とした後期臨床研修プログラムがある都道府県は○を、ない場合は×を選択してください。

【PD】

「へき地医療を担う総合医の育成を目的とした後期臨床研修プログラムの具体的内容」

(38) (37) で○を選択した場合は、後期臨床研修プログラムの内容を具体的に記載してください。

「へき地医療を担う総合医の育成を目的とした後期臨床研修プログラムの運用状況」

(39) (37) で○を選択した場合は、平成 23 年度にプログラムを選択した後期研修医の人数を記載してください。

■へき地医療に従事する医師のキャリアデザイン

ここで述べるキャリアデザインとは、へき地医療に従事する医師が、自身の医師としての生涯設計をもとに、安定した身分でキャリアを重ねられるように都道府県が支援するシステムのことです。

「へき地医療に従事する医師のキャリアデザイン」

(40) 都道府県あるいは都道府県の関連する大学、病院等が、都道府県の事情等を反映したへき地医療に従事する医師のキャリアデザインを作成している場合は○を、作成していない場合は×を選択してください。【PD】

「へき地医療に従事する医師のキャリアデザインの具体的内容」

(41) (40) で○を選択した場合は、へき地医療に従事する医師のキャリアデザインの具体的内容を記載してください。

「へき地医療に従事する医師のキャリアデザインの運用状況」

(42) (40) で○を選択した場合は、へき地医療に従事する医師のキャリアデザインを、平成 23 年度に活用した医師の人数を記載してください。

3. へき地歯科医療について

「へき地歯科診療所について」

(43) へき地歯科診療所を有する場合はその数を記載してください。ない場合は0と記載してください。

「第10次へき地保健医療計画におけるへき地歯科医療」

(44) 平成17年に策定された第10次へき地保健医療計画にへき地歯科医療の記載を行った場合は○を、行っていない場合は×を選択してください。(第10次へき地保健医療計画を作成していない場合も×を選択してください) 【PD】

「歯科医師会との協議」

(45) へき地歯科医療について歯科医師会と協議の場を設けたことがある場合は○を、設けたことがない場合は×を選択してください。【PD】

「へき地歯科医療の実態調査」

(46) へき地歯科医療について、実態調査を行ったことがある場合は○を、行ったことがない場合は×を選択してください。【PD】

「へき地における小児の口腔状況について」

(47) へき地における小児(3歳児)の齲蝕について他地区との比較検討を行っている場合は○を、行っていない場合は×を選択してください。【PD】

「へき地における高齢者の口腔問題」

(48) へき地における高齢者の口腔問題の現状把握のための調査を行っている場合は○を、行っていない場合は×を選択してください。【PD】

「へき地における歯科検診」

(49) 全てのへき地で年に1回以上は歯科検診を行っている場合は○を、行っていない場合は×を選択してください。【PD】

「歯科医師会との協働による実態調査」

(50) (46) で○を選択した場合は、その実態調査が歯科医師会との協働によって行われていた場合は○を、行われていなかった場合は×を選択してください。【PD】

「第11次へき地保健医療計画における歯科医療対策」

(51) 第11次へき地保健医療計画にへき地歯科医療の記載を行った場合は○を、行っていない場合は×を選択してください。【PD】

「第11次へき地保健医療計画策定後の進展について」

(52) 第11次へき地保健医療計画策定後に行われたものについて、以下のそれぞれの選択肢について行われたものには○を、行われていないものには×を選択してください。【PD】

- ①へき地歯科医療に関する歯科医師会との協議
- ②へき地歯科診療に対する予算的補助
- ③へき地歯科医療に関するへき地を有する市町村との協議
- ④へき地における住民の歯科健康診査事業の推進
- ⑤へき地医療拠点病院やへき地診療所における新たな歯科の開設

「歯科口腔保健推進条例について」

(53) 歯科口腔保健推進条例を制定している場合は○を、していない場合は×を選択してください。【PD】

「都道府県職員としての歯科医師」

(54) 都道府県職員として採用されている歯科医師について、常勤、非常勤の別を下記から選択してください。【PD】

- ①常勤、非常勤ともに採用されている
- ②常勤のみ採用されている
- ③非常勤のみ採用されている
- ④歯科医師は採用されていない

「都道府県職員としての歯科医師の勤務施設」

(55) (54) で①～③を選択した場合、その歯科医師の主たる勤務施設が、以下のそれぞれの選択肢について該当していれば○を、していなければ×を選択してください。【PD】

- ①都道府県立病院
- ②診療所
- ③保健所
- ④その他

「都道府県職員としての歯科衛生士」

(56) 都道府県職員として採用されている歯科衛生士について、常勤、非常勤の別を下記から選択してください。【PD】

- ①常勤、非常勤ともに採用されている
- ②常勤のみ採用されている
- ③非常勤のみ採用されている
- ④歯科衛生士は採用されていない

「都道府県職員としての歯科衛生士の勤務施設」

(57) (56) で○を選択した場合、その歯科衛生士の主たる勤務施設が、以下のそれぞれの選択肢について該当していれば○を、していなければ×を選択してください。【PD】

- ①都道府県立病院
- ②診療所
- ③保健所
- ④その他

4. へき地看護について

「へき地診療所に対する看護師派遣」

(58) 都道府県が関与して、へき地診療所に対する看護師派遣が行われている場合は○を、行われていない場合は×を選択してください。【PD】

「看護師派遣の具体的内容」

(59) (58) で○を選択した場合は、へき地診療所に対する看護師派遣の具体的内容（関与している組織、病院等や実績）について記載してください。

「看護師・助産師・保健師養成所（看護系大学含む）との連携」

(60) へき地診療所やへき地医療拠点病院の看護職の確保や支援において、都道府県内にある看護師・助産師・保健師養成所（看護系大学を含む）との間に何らかの連携がある場合は○を、連携がない場合は×を選択してください。【PD】

「看護師・助産師・保健師養成所（看護系大学含む）との連携の具体的内容」

(61) (60) で○を選択した場合は、看護師・助産師・保健師養成所（看護系大学を含む）との連携の具体的内容を記載してください。

「都道府県看護協会との連携」

(62) へき地診療所やへき地医療拠点病院の看護職の確保や支援において、都道府県看護協会との間に何らかの連携がある場合は○を、連携がない場合は×を選択してください。【PD】

「都道府県看護協会との連携の具体的内容」

(63) (62) で○を選択した場合は、都道府県看護協会との連携の具体的内容を記載してください。

「へき地診療所やへき地医療拠点病院の看護職に対する研修支援」

(64) へき地診療所やへき地医療拠点病院の看護職に対する研修支援（へき地医療支援機構の取組を含む）が行われている場合は○を、行われていない場合は×を選択してください。【PD】

「へき地診療所やへき地医療拠点病院の看護職に特化した研修支援」

(65) (64) で○を選択した場合は、それが特にへき地診療所やへき地医療拠点病院の看護職を対象とした支援の場合は○を、へき地に限定していない場合は×を選択してください。【PD】

「へき地診療所やへき地医療拠点病院の看護職に特化した研修支援の内容」

(66) (65) で○を選択した場合は、支援の具体的内容（例：参加しやすいよう費用補助や会場選定、研修のお知らせ配布、再就業者も含めた離島等へき地への就業者向け研修の開催等）と平成23年度の実績を記載してください。

6. 地域医療支援センターについて

ここで述べる地域医療支援センターとは、厚生労働省で行われている地域医療確保推進事業の一環として、運営している都道府県に対して財政支援がされる機関のことです。

「地域医療支援センターの設置状況」

(74) 地域医療支援センターの設置状況について以下の選択肢から選択してください。【PD】

- ①設置している ②設置する計画がある ③設置する計画はない

「地域医療支援センターを設置している場所」

(75) (74) で①を選択した場合は、設置している場所を以下の選択肢から選択してください。【PD】

- ①都道府県 ②地元大学 ③医師会 ④病院 ⑤その他

(76) ～ (78) の設問については、(74) で①もしくは②を選択した都道府県のみ回答してください。

「地域医療支援センターとへき地医療支援機構との関係」

(76) 地域医療支援センターとへき地医療支援機構との関係について以下の選択肢から選択してください。【PD】

- ①へき地医療支援機構と地域医療支援センターは一体となっている。
②へき地医療支援機構とは別に設置しているが有機的連携が図られている。
③へき地医療支援機構とは別に設置しており、各々が独自に活動している。
④具体的な関係性については未定である。

「地域医療支援センターが担う役割」

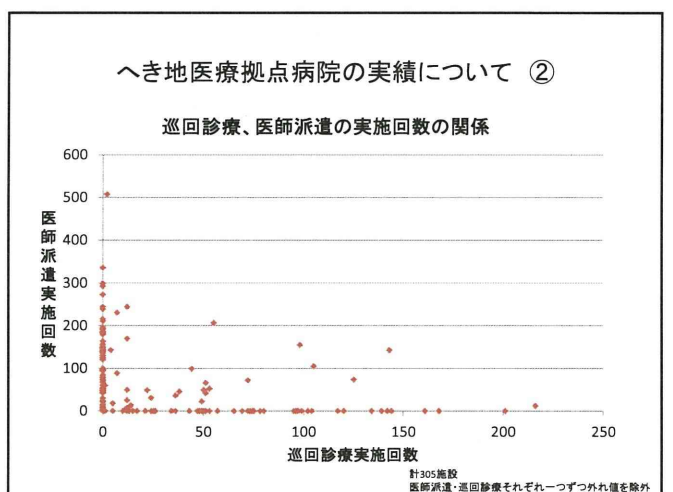
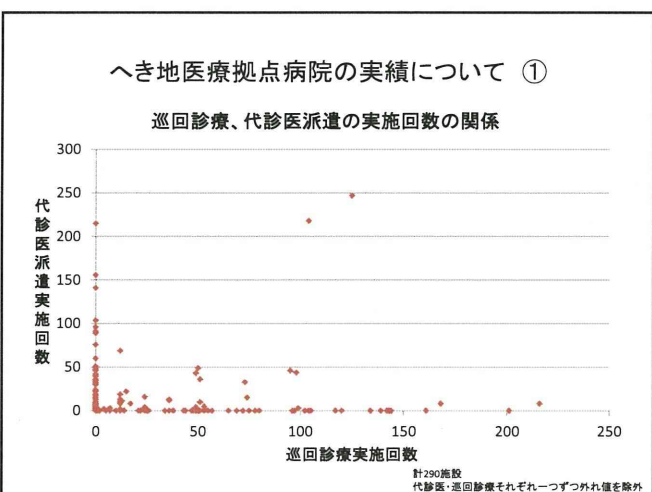
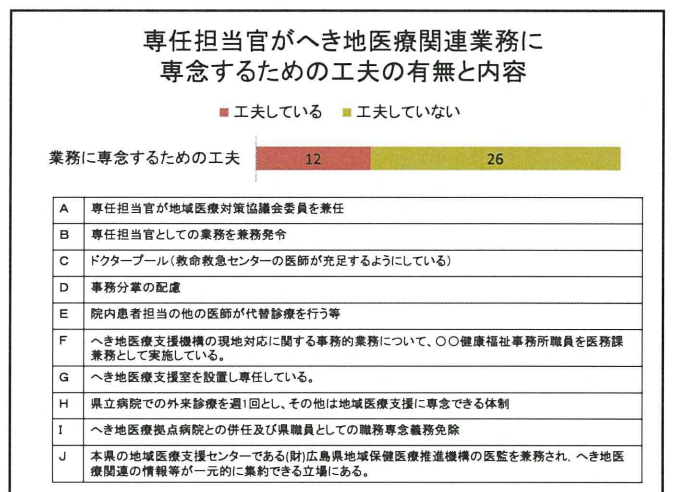
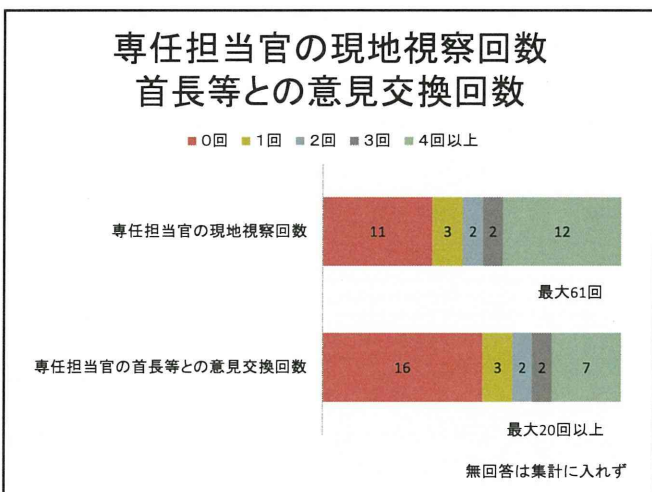
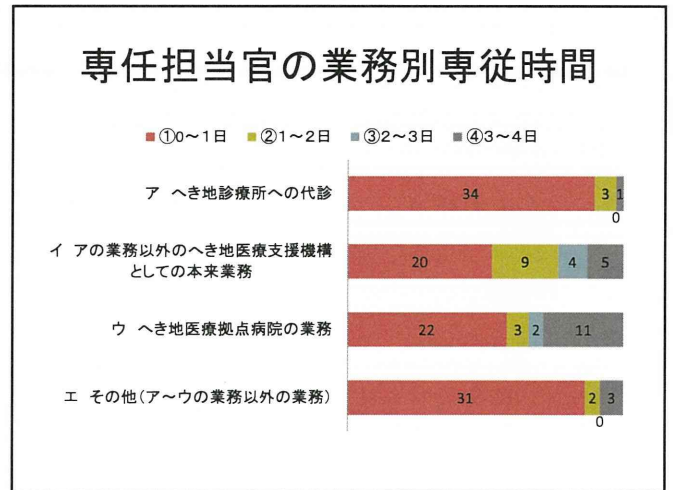
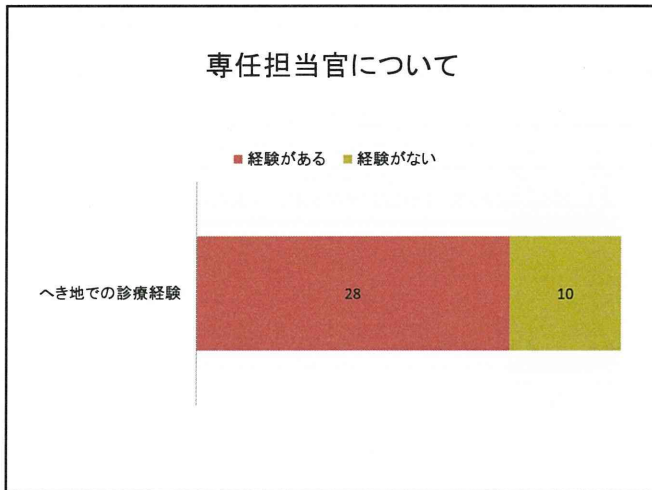
(77) 地域医療支援センターが担う役割について、以下のそれぞれの選択肢に該当すれば○を、該当しなければ×を選択してください。【PD】

- ①医師確保に関わる総合相談窓口の設置 ②医師のあっせん・派遣調整
③医師確保対策に関する情報発信 ④地域医療に従事する医師の支援
⑤奨学金等により将来地域で就業することを義務付けられている医師のキャリア形成支援
⑥地域における指導医の養成と指導医の適正な配置 ⑦地域での研修体制整備
⑧地域医療関係者との意見調整 ⑨具体的な役割に関しては検討中

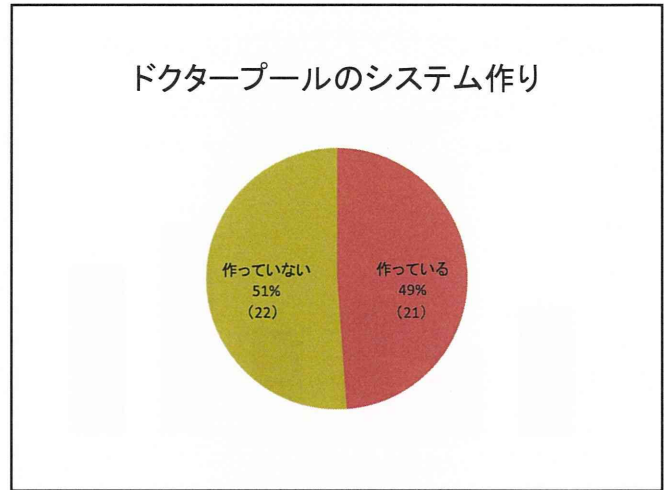
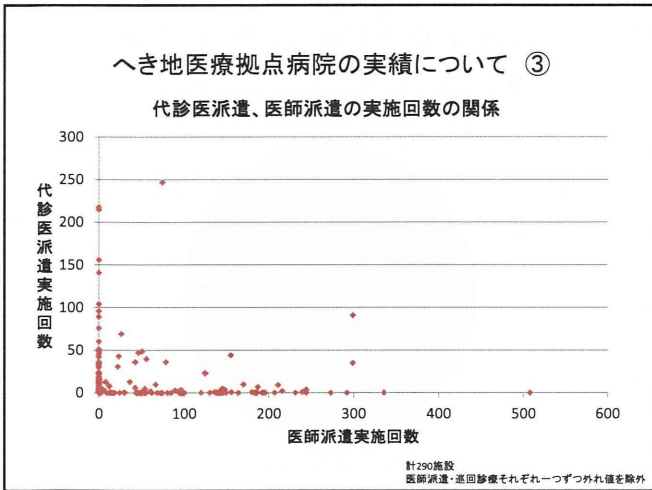
「最も重点を置いている地域医療支援センターの役割」

(78) (77) で回答した中から最も重点を置いている項目を選択してください。【PD】

都道府県第11次へき地保健医療計画の進捗状況調査



都道府県第11次へき地保健医療計画の進捗状況調査



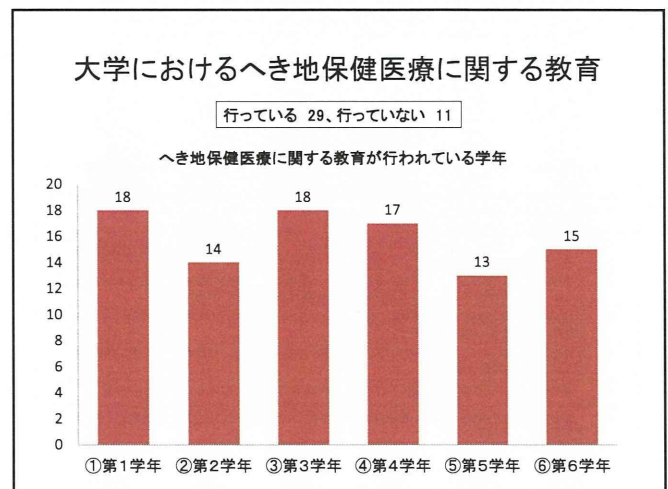
ドクタープールの新規登録者・登録者・へき地医療に関わっている医師

	新規登録数	登録医師数	へき地医療に関わっている医師数
A	18	16	5
B	2	15	1
C	7	13	4
D	0	2	2
E	0	5	1
F	5	7	0
G	0	2	2
H	6	16	0
I	2	2	1
J	1	5	1
K	34	132	1
L	0	1	0
M	1	5	3
N	2	35	28
O	0	1	0
P	0	2	1
Q	13	5	10



中学生・高校生を対象とした啓発活動 (具体的内容 ②)

	回数	具体的内容(一部抜粋)
I	1	医学部進学セミナー
J	3	「外科手術体験セミナー、医療チュートリアル体験、ドクタートーク」等の開催
K	1	へき地医療研修会
L	1	「こころざし育成セミナー」 医学部進学希望の高校生を対象に実際の医療現場を体験してもらおうセミナー。全7会場のうち、1会場をへき地で実施
M	2	高校生を対象とした医学部進学セミナーでへき地の医療機関を訪問
N	1	高校生への自治医科大学関連資料の配付
O	3	医療現場体験
P	2	高校生を対象に病院での医療体験を中心としたセミナーを開催
Q	1	高校生地域医療現場体験ツアー
R	2	県内高校への出前講座
S	1	・大学教授・医学生の講演・診療科別体験学習 ・テーマ別ディスカッション
T	18	大学オープンキャンパス(高校生対象)の活用や各高校への訪問により、地域医療の現状や医師修学資金制度の説明を行っている。

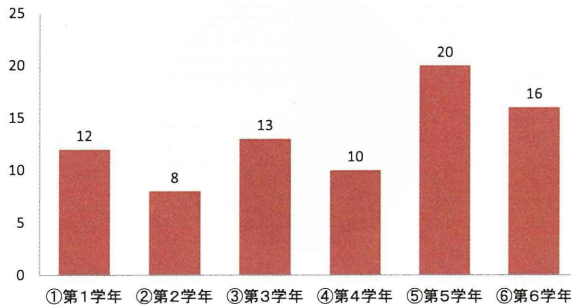


都道府県第11次へき地保健医療計画の進捗状況調査

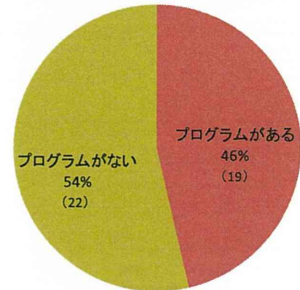
へき地医療の現場を経験できるカリキュラム

カリキュラムがある 29、カリキュラムがない 11

へき地医療の現場を経験できるカリキュラムのある学年



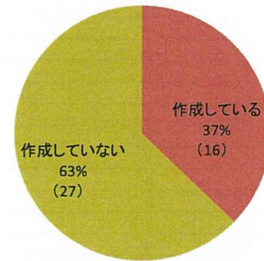
へき地医療を担う総合医の育成を目的とした後期臨床研修プログラム①



へき地医療を担う総合医の育成を目的とした後期臨床研修プログラム② (具体的事例から一部抜粋)

	具体的内容
A	総合医コースとして家庭医療プログラム、病院総合医プログラムを設定している。
B	5年研修の場合、2年間は日本内科学会教育病院で、1年間は日本内科学会教育関連病院で内科研修を行い、2年間は地域で総合研修を行う。
C	1.内科総合研修:2年間、2.選択研修:1年間(地域リハビリテーション、診療所研修など) 3.共通カリキュラム、3年間共通(各種カンファレンスや研修会)、4.在宅医療・終末期医療
D	研修医は3年間を通して週2半日以上家庭医療外来を担当する、等
E	家庭医養成キャリアアップコース 県立病院や公立診療所にて2年間研修した後、へき地を含む公的医療機関にて1年間勤務
F	地域医療を担うためのプライマリ・ケアの知識と技能の習得を目指す医師を対象。原則3年間の研修期間として、10の地域医療の拠点病院から、3~6施設をローテーションする。
G	大学病院と周囲の医療機関が連携したプライマリ・ケア医養成コース 総合診療方式のローテーション研修を受けた後、地域包括医療を実践している施設群で1年以上の総合医療研修を受ける。
H	総合診療部専攻医研修カリキュラム ①外来診療(総合診療部外来)、②入院診療、③救急診療、④総合医・家庭医に必要な臨床技能の習得:内視鏡等の検査手技や眼科・耳鼻科等のプライマリ・ケアに必要な診察技法等 ⑤地域医療・へき地医療:へき地医療の代診支援への参加も可能

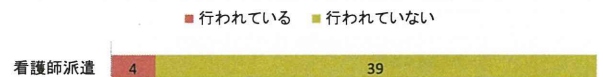
へき地医療に従事する医師のキャリアデザイン①



へき地医療に従事する医師のキャリアデザイン② (具体的事例から一部抜粋)

	具体的内容
A	県職員の身分で市町へ派遣(1回/週の研修有)。2年間指定のへき地医療機関で勤務すると1年間の研修を受けることができる。
B	大学と連携して医師キャリア形成のための研修プログラムを作成:医師が地域医療に従事しながらも最先端の医療技術が習得できるよう県内中核病院との間をローテーションスキルアップできる
C	中核となるへき地医療拠点病院と、それ以外の小規模な病院間で定期的に移動させキャリアを積み重ね、また後期研修で大学等に戻り研修を重ねる機会を与えたりしている。
D	義務年限中の医師が専門分野の技術習得ができるようにするため、へき地勤務の他、週一回専門病院で研修することを認めている。
E	任期付県職員(ドクターバンク医師)としての採用:任期3年のうち、1年間は研修・研究期間とすることが可能、研究資金も付与。
F	医師修学資金貸与者でへき地勤務の義務を有する者のキャリア形成モデルプランを作成
G	総合内科・総合診療科コース、救急科コースの4年ないし5年間で、総合内科及び救急科専門医の早期取得を目指す。

へき地診療所に対する看護師派遣



	具体的内容
A	平成24年度については、〇〇局に籍を置く看護師1名を、へき地診療所に自治法派遣している。
B	へき地医療拠点病院からへき地診療所への看護師派遣 平成23年度実績:4診療所に週1回派遣
C	へき地医療拠点病院である大学病院から指定管理しているへき地診療所への派遣
D	へき地診療所24箇所のうち、県立の16箇所へ看護師を派遣している。8箇所の町村立診療所には派遣していない。

都道府県第11次へき地保健医療計画の進捗状況調査

看護師・助産師・保健師養成所 (看護系大学含む)との連携

■連携がある ■連携がない



	具体的内容
A	看護実習の受入れ、講義など
B	へき地医療拠点病院を県立看護師養成所の実習施設に指定し、就労につなげる。
C	看護師等養成所運営費補助(県単独) 〇〇地域の過疎化対策として、若者の流出防止を期待すると共に、公立組合病院の看護師確保・病院の教育機能の充実を目的として看護師養成所を設置(圏域内唯一)し、運営費補助事業を実施している。
D	研修支援等に関する協議
E	合同就職説明会の開催
F	へき地医療拠点病院の中に、病院や地域で看護師を確保するため、看護学校を併設している病院がある。
G	地域特性を理解した看護を学ぶ講座を設けている

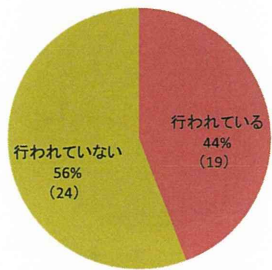
都道府県看護協会との連携

■連携がある ■連携がない



	具体的内容
A	看護協会ホームページへのへき地医療機関求人募集の掲載など
B	合同就業面接会などでへき地医療拠点病院のブースを設け、就業促進を図る。(全病院を対象とした「ナースセンター事業」の一環)
C	看護職支援センターの設置補助
D	離島就業看護職員研修を看護協会に委託
E	看護協会が運営する看護師紹介制度への登録など。
G	へき地医療拠点病院の看護職に対するWeb研修の実施

へき地診療所やへき地医療拠点病院の 看護職に対する研修支援



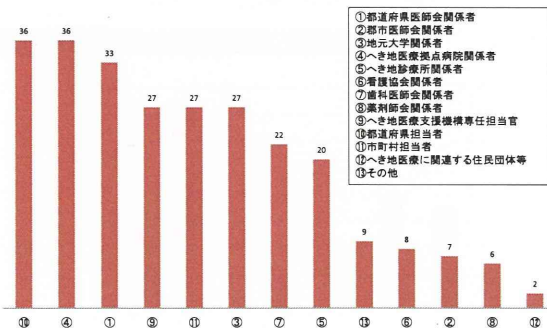
へき地診療所やへき地医療拠点病院の 看護職に特化した研修支援

■へき地の看護職を対象 ■へき地に限定していない

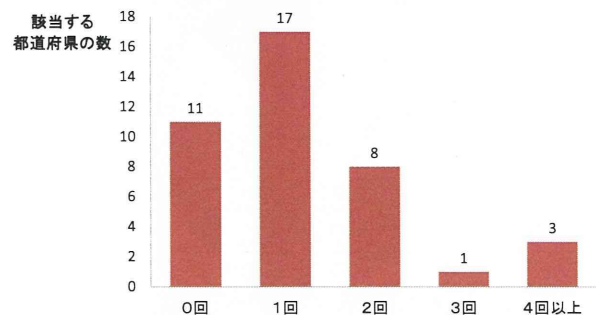


	具体的内容
A	「保健医療従事者の定着支援研修」の実施

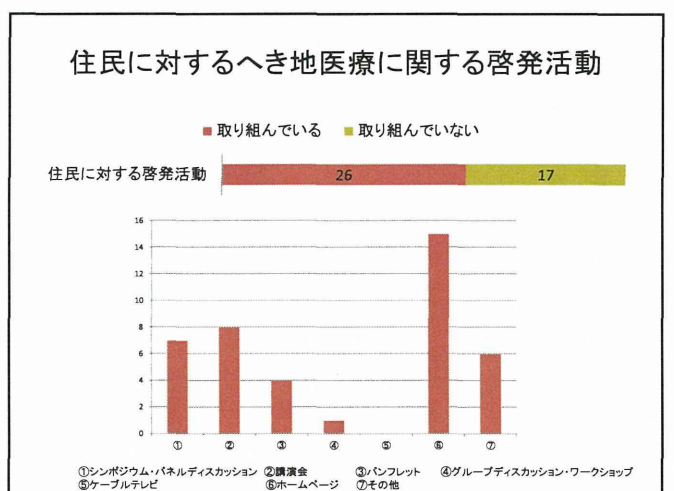
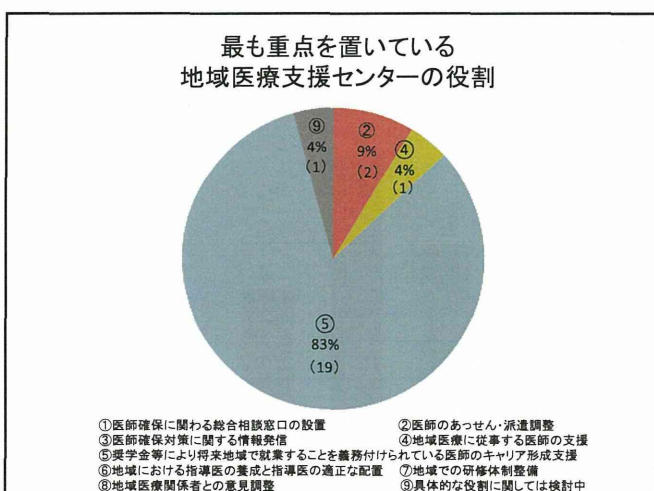
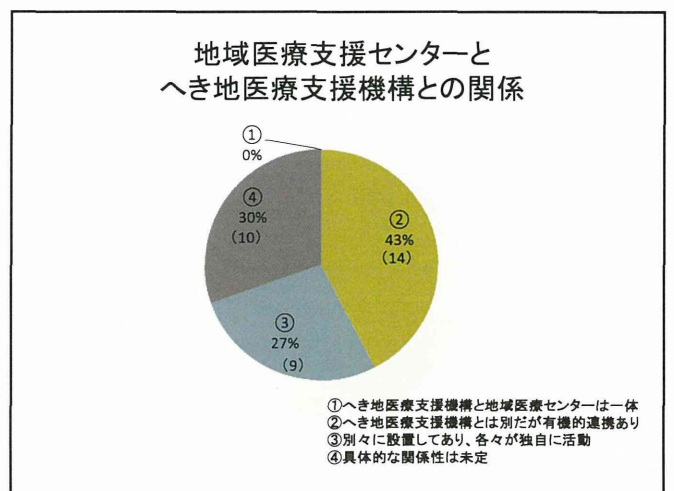
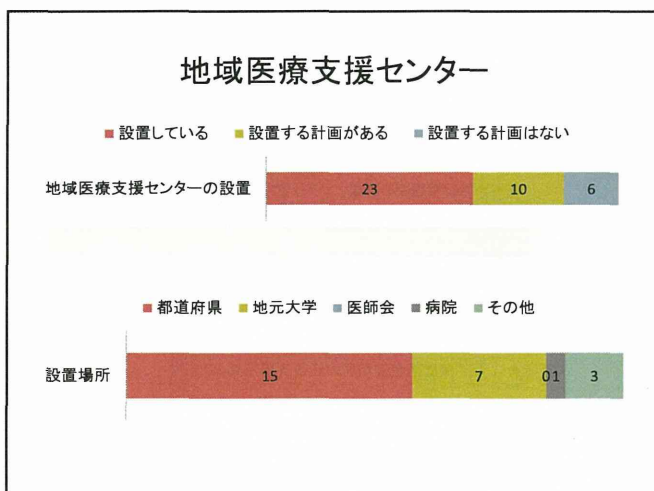
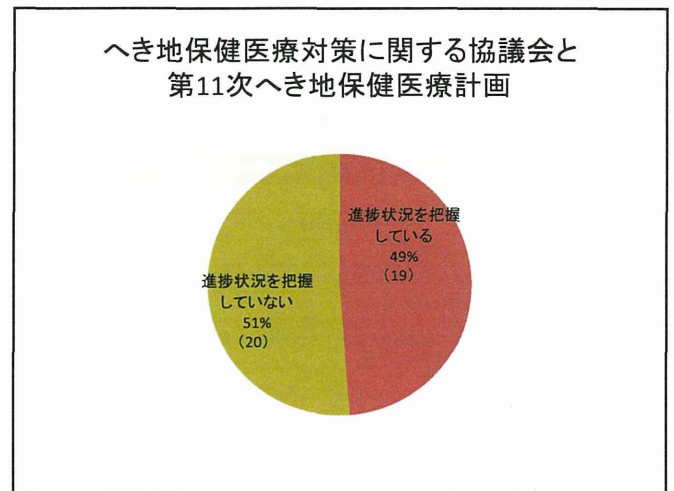
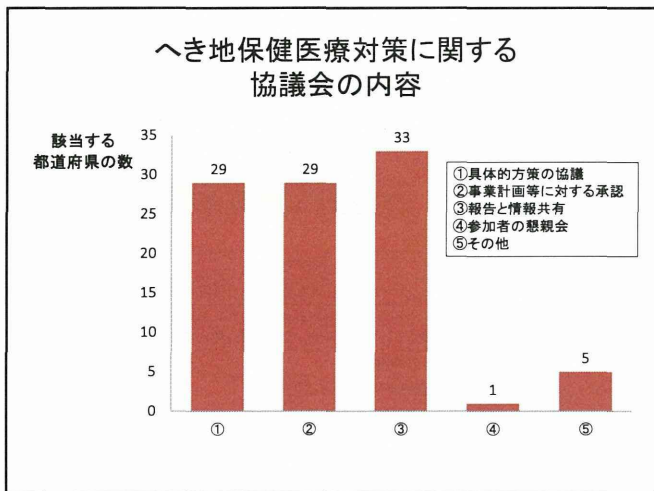
へき地保健医療対策に関する協議会の参加者



へき地保健医療対策に関する 協議会を開催した回数



都道府県第11次へき地保健医療計画の進捗状況調査



都道府県第11次へき地保健医療計画の進捗状況調査

都道府県による住民団体の 立ち上げもしくは支援

■ 行っている ■ 行っていない

住民団体の立ち上げもしくは支援



	具体的内容
A	<ul style="list-style-type: none"> ・住民団体などが主催する情報交流会やシンポジウムの開催、啓発パンフレットの作成など地域が抱える課題に対応する活動に補助を行う。 ・住民団体等を対象としたワークショップを県が主催し、各団体の活動促進を図る。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・地域医療を考える市町や住民の取り組み支援 ・市町等が開催するセミナーでの機構職員による講演
C	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村主催の取組みに対する運営等支援 ・NPO法人、その他地域医療を支える取組を行う団体への活動支援
D	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民が主体となった地域医療研究会の活動支援

【資料 2】 へき地に勤務する医師を評価するモデル「へき地医療指定医（仮称）」に関するアンケート調査 に関する資料

- (2-1) へき地に勤務する医師を評価するモデル「へき地医療指定医（仮称）」に関するアンケート調査調査用紙
- (2-2) へき地に勤務する医師の評価についてのモデル図
- (2-3) へき地に勤務する医師を評価するモデル「へき地医療指定医（仮称）」に関するアンケート調査集計結果

へき地に勤務する医師を評価するモデル「へき地医療指定医(仮称)」に関するアンケート調査

まず、あなたについて御聞きします。当てはまる選択肢に○をつけてください。

- A. あなたの年代 : 1) 20代 2) 30代 3) 40代 4) 50代 5) 60代 6) 70代以上
- B. あなたの性別 : 1) 女性 2) 男性
- C. あなたの医師としての経験年数
1) 10年未満 2) 20年未満 3) 30年未満 4) 40年未満 5) 50年未満 6) 50年以上
- D. あなたが現在の職場に至るまでに、通算で最も長く勤務されていた職場に当てはまるものに○をつけてください。
1) 大学附属病院 2) 大病院(201床以上) 3) 中病院(51~200床)
4) 小病院(50床以下) 5) へき地での診療所 6) へき地以外の診療所 7) その他()
- E. あなたが現在の職場に勤務されている理由で、下記のうちもっとも当てはまるものに○をつけてください。
1) 自治医科大学卒業医師 2) へき地に勤務する医師のための修学資金制度養成医師
3) 大学医局からの派遣 4) 医師あっせん事業等による紹介
5) 自らの意思で赴任(出身地、以前からの希望など)
6) その他 よろしければ具体的に()

上記で1)もしくは2)と回答された方に御聞きします。現在のあなたにあてはまるものに○をつけてください。ここで義務年限とは修学資金等の契約でへき地等に勤務することになっている年限のこととします。

- a) 義務年限内 b) 義務年限後

同封した「へき地に勤務する医師の評価についてのモデル」を御覧ください。

今回は、本研究班が作成したこのモデルについて御意見を御聞きしたいと思えます。

各選択肢のうち、あなたの御意見にもっともあてはまるものに○をつけてください。

【へき地に勤務する医師を評価する必要性】

自治医科大学ばかりでなく、へき地勤務医師養成制度によりへき地に勤務する医師が養成されていますが、いわゆる「義務後」にへき地に残留する医師が少なく、継続してへき地に勤務する医師が増加しないことが指摘されています。この原因の一つとして、「へき地での診療に従事していても、それが専門性として認められない。」ことがあるとされており、へき地に勤務する医師を増加させ、現在へき地に勤務している医師のモチベーションを高めるためには、へき地で勤務したことを評価することが必要であると考えられます。

問1 あなたは、医師がへき地で診療を行っている(行った)ことを評価することが必要だと思われませんか。

1. 必要である 2. 必要ではない 3. わからない

問2 前問でそのように回答された理由をよろしければ御聞かせください。

【へき地に勤務する医師の評価についてのモデルの有効性】

問3 本研究班が作成したようなモデルにより、へき地勤務を行っている(行った)医師の資格を作ることは、へき地勤務を評価することになると考えられますか。

1. そう思う 2. そうは思わない 3. わからない

問4 へき地勤務を評価する方法について、御提案があれば御聞かせください。

裏面にも質問があります。御回答をよろしくお願ひします。